

福山義倉圖書館に於ける天文に関する圖書

福山市 廣 井 猛

去年十月1日、山本先生が福山市誠之館中學校の天文機械を調査された時、倉敷の荒木氏を通じて、當市の義倉圖書館に於ける天文に關係ある圖書を調査してほしいといふ先生の御依頼を受けたが、私用多忙のため今に至つて漸く果すことが出来た。念を入れて調べたつもりではあるが、落ちてゐるものもあるかも知れないが、その點御容赦願ひたい。〔天界151號参照〕

配列は圖書館の目録順によつた。本は引出して現物を見てゐないので内容はわからない。著者名又は出版年月の書いてないのは不明のものである。著者名の終の(清)は清國、(明)は明國。

書 名	出 版 年 月	表 装 冊 数	著 者 名
星	明治43年 四 月	洋 1	一 戸 直 藏
月	明治42年 六 月	洋 1	一 戸 直 藏
太陽曆俗解	明治 5年十一月	和 3	花 井 靜 庵
天文地學講話	明治42年 八 月	洋 1	横 山 又 次 郎
宇宙研究星辰天文學	明治39年十一月	洋 1	一 戸 直 藏
方圓星圖	文化 9年 四 月	折 1	石 坂 常 堅
曆引圖編	安政 2年 八 月	和 1	澁 川 元 孚
立法(寫本)	天保 8年 五 月	和 1	—
天界の現象	明治36年 十 月	洋 1	三 澤 力 太 郎
天學指要	弘化 3年 一 月	和 4	西 村 遠 里
儀象志(寫本)	—	和 4	南 懷 仁(清)
天文瓊統星圖舉要(寫本)	安政 3年 三 月	和 1	保 井 春 海
曆法新書(寫本)	—	和 6	—
佛國曆象編	文化12年十二月	和 5	釋 圓 通
丁酉元曆	天保14年	和 12	小 出 兼 政
弘化甲辰元曆	—	和 6	小 出 光 教
蠟蘭埜曆歩法	—	和 10	小 出 光 教
曆象考成(寫本)	—	和 20	允 祿, 允 祉(清)
新法曆引(寫本)	—	和 1	湯 若 望(清)
崇禎曆書曆引	安政 2年 三 月	和 2	李 天 經(明)
應元曆(寫本)	—	和 2	河 野 通 禮
天地球用法	寛政 5年	和 7	本 木 仁 太 夫
新曆氣朔簡法(寫本)	—	(横)和 4	福 田 源 泉
實驗錄(寫本)	天明 6年	和 2	麻 田 安 彰

天文地學講話	明治44年十一月	洋	1	横山又次郎
誰にも必要な星の圖	大正2年十二月	略	1	小倉伸吉
誰にも分る曆の話	大正2年十月	洋	1	一戸直藏
陰陽兩層比較表	明治6年十一月	略	1	中上川彦次郎
通俗講義天文學(上)	大正2年九月	洋	1	一戸直藏
水星合退伏推算(寫本)	—	和	1	—
曆表	—	和	1	—
立成表(寫本)	—	和	1	—
授時曆經(寫本)	—	和	1	—
經外別書(寫本)	—	和	1	—
救合祕曆氣朔簡法推步艸	—	和	1	福田半
縮象符天曆書	—	和	1	—
晨昏分表	—	和	1	—
丁酉天曆推步式	—	和	1	本橋泉子混
曆書雜錄	—	和	1	—
曆象考成七曜推步名目解	—	和	1	篠原善富
星座圖稿	—	和	1	山本武平
曆講話	大正6年六月	洋	1	小澤啓太郎
天文地文	大正10年一月	洋	1	田中四郎左衛門
古今東西時刻對照便覽	大正11年五月	折大	1	齋藤正雄
天文と人生	大正11年九月	洋	1	山本一清
天變地異	大正13年六月	洋	1	石井重美
曆略々傳説	大正15年二月	洋	1	石橋鞠彦
新時代の宇宙研究	昭和2年八月	洋	1	關口鯉吉

(以上)

通 信

拜啓 御變りもなく御暮らしのことゝ存じます。寮の櫻も咲きかけて來ました。梢の間から洩れて來る星影を眺めてゐますと、昨年京都へ行つた時のことが思ひ出されて來ます。あのときにお訪ねしやうと思ひ乍らつひにその餘暇なくて又殺風景な眞夏の東京へあたふたと歸つて來たのですが、あの時吉田山の上に立つて見た美しい花山とその上の白い天文臺の建物を見た時の印象は到底忘れられません。あの清明な花山一帯の景色を打毀さないで、人間に作れるものは天文臺だけだと思つてゐます。測候所や三角塔では殺風景なやうに思ひます。

私は今寮に居りまして、あまり暇がなく觀測より遠ざかつて居りますが、寸暇を利用して少しづつ乍ら研究して居ます。此度手磨きの13極反射鏡製作に着手して近々出來上る運びになつてゐます。先づは近況御知らせまで。末筆乍ら諸先生の御健康を祈ります。 敬 具

四月9日

一高北寮にて

押田 勇 雄

消 息

昭和九年三月京大天文部を卒業した新理學士二人

荒木 九 阜

堀井 政 三

昭和九年四月京大天文部に入學した入々

五高 今 川 文 彦
成城 吉 岡 盛 男七高 王 石 岩
浦和 上 野 季 夫